

石材店のための法律講座・質問一覧

平成 20 年（2008 年）11 月 25 日号／第 1833 号

質問

宗教法人がペット用の霊園を開設して葬儀等を行う場合、法人税が課税されるのでしょうか？

平成 20 年（2008 年）12 月 15 日号／第 1835 号

質問

墓石を販売する契約を結んだ際、お客様から手付金をもらったのですが、突然お客様の都合でキャンセルされました。手付金の返還等の対処方法を教えてください。

平成 21 年（2009 年）1 月 25 日号／第 1838 号

質問

地震が起き、隣のお墓が倒れて、お客様のお墓が壊されてしまいました。この場合、損害賠償問題は一体どうなるのでしょうか。

平成 21 年（2009 年）2 月 25 日号／第 1841 号

質問

離婚して現在 1 人で暮らしているのですが、元夫が亡くなり、そのお墓を息子が承継しています。息子は私が亡くなった後、「このお墓に入れば良い」と言ってくれているのですが、法律上問題ないのでしょうか？

平成 21 年（2009 年）3 月 25 日号／第 1844 号

質問

亡くなったご主人の遺言に自分の好きだった「〇〇湾に散骨してほしい」と書いてあったそうです。奥様は故人の希望をかなえてあげたいようですが、どのような場所にお骨を撒いても問題は生じないのでしょうか？

平成 21 年（2009 年）5 月 25 日号／第 1849 号

質問

宗教法人が運営する霊園に墓地を持っているお客様からの質問ですが、先日その宗教法人が倒産してしまうような噂を聞いたそうです。もしそのようなことが起きた場合、お客様のお墓は一体どのようなようになるのでしょうか？また、株式会社の倒産と違うところもあれば教えてください。

平成 21 年（2009 年）6 月 25 日号／第 1853 号

質問

お墓参り中、お客様が霊標（墓誌）に寄りかかった際に倒れ、大怪我を負いました。これまで霊標は外すことを前提に作っており、このようなケースは全くありませんでしたが、今回の場合、誰がどのような法的責任を負うことになるのでしょうか？

平成 21 年（2009 年）7 月 25 日号／第 1855 号

質問

無縁になった墓石や墓地の改修をした際に出たコンクリート片や木くずなどを処理業者に依頼して廃棄したところ、その業者が無許可であるうえ、不法投棄したとして、逮捕されました。処分を依頼した当社も警察から事情を聞かれましたが、石材店にも刑事責任はあるのでしょうか。

平成 21 年（2009 年）9 月 25 日号／第 1860 号

石材店に寄せられた、あるお客様からの質問です。

「あるお寺の檀家でお墓もありましたが、既に、離檀手続とお性抜きも済ませ、そのお寺には必要なお金を支払いました。ところが、先日発生した地震によりお墓が倒れてしまったようで、何故か修復費用を請求されました。支払った金額には、お墓の撤去費用も含まれていると思っていたので、今回請求された撤去費用を払うつもりはありません。法的な見解はいかがでしょうか？」

平成 21 年（2009 年）10 月 25 日号／第 1863 号

質問

「無縁のお墓の処理について、墓理法に基づいて無縁処理（公告等）を実施した墓所で、数年後音信不通で場所もわからなかった承継者（になるべき人物）が現れ権利を主張してきましたが、どのように対処すれば良いのでしょうか。

逆に承継者（になるべき人物）が海外で暮らしているらしい事は承知しているが、全く連絡が取れず（連絡先がわからない）管理料の納入も無く、請求も出来ない場合、無縁処理の手続きをする事は可能でしょうか？」

平成 21 年（2009 年）11 月 25 日号／第 1866 号

質問

お客様から、墓石の一部に、好きな歌の歌詞を彫りたいという要望をいただきました。このような場合、無断で使用しても良いのでしょうか？また、漫画のキャラクターの場合はどうでしょうか？

平成 22 年（2010 年）1 月 25 日号／第 1871 号

質問

お客様から、「墓石の一部が変色した。取り替えて欲しい」というクレームがありました。建立時に「自然石の性質上、色が変わることもある」旨の説明はしていたのですが、こちらの言い分に耳を貸してくれません。建立して既に 5 年経過しているのですが、このような場合、法律上、どのような責任を負うことになるのでしょうか？また、今後どのようなことに気をつけて、販売したほうが良いのでしょうか？

平成 22 年（2010 年）2 月 25 日号／第 1874 号

質問

あるお客様が、寺墓地にお墓を建立したところ、後になって宗派の違いに気づき、改葬を望んでいます。このような場合、お墓を建立した石材店に法律的な責任は問われるのでしょうか？また、別のお客様の件ですが、事前の確認不足により、指定された区画と違う墓所にお墓を建立してしまい、トラブルになったという事例もあります。このような場合、石材店は法律上、どのような責任を負うことになるのでしょうか？

平成 22 年（2010 年）3 月 25 日号／第 1877 号

質問

ある国産石種「〇〇石」に似た中国産の石を勝手に「新〇〇石」と名付けて販売している業者がいます。このようなことは法的に問題ないのでしょうか？また、もし、お客様が国産石種「〇〇石」と勘違いしてその石を使用した墓石を購入してしまった場合、その後、どのような法的責任が問われるのでしょうか？

平成 22 年（2010 年）5 月 25 日号／第 1882 号

質問

お寺が新しく本殿を建てることを計画し、従来の墓地を別の場所に移すという墓地の区画整理事業を行うことになりました。そこで、責任役員会を開くなど所定の手続きを行い、檀家全員に墓地の使用区画の変更について承諾を求めたところ、1 人を除き承諾してくれたのですが、1 人だけ絶対反対だといって応じてくれません。反対している人のお墓を移転させることはできるのでしょうか？

平成 22 年（2010 年）6 月 25 日号／第 1885 号

質問

ある石材店が、「設計・製造・施工の店 〇〇石材店」という電話帳の広告を出しているのですが、実際には設計・製造は加工メーカーが行っていて、その石材店では行ってませ

ん。このような場合、誇大広告として法的な措置はとられないのでしょうか？また、石材技能士やお墓ディレクターの資格を持っていないのに、広告で「石材技能士の店、お墓ディレクターがお応えします」などと表記していた場合、法的にどのような措置がとられるのでしょうか？

平成 22 年（2010 年）7 月 25 日号／第 1888 号

質問

お客様への販売促進用ツールとして、自社オリジナルの墓石カタログを製作しようと考えているのですが、近隣の墓地にユニークな墓石があり、それを掲載したいと考えています。ちなみに、その墓石は当社で製作・施工したのではなく、どなたの所有されているお墓か、また製作・施工した石材店もわかりません。このような墓石を無断で掲載した場合、法的責任は問われるのでしょうか？

平成 22 年（2010 年）9 月 25 日号／第 1893 号

質問

ある石材店からの質問です。

「当社で成約しそうになっていたお客様からお断りの連絡をいただきました。理由を尋ねてみると、近隣の A 石材店から、以前当社でおこなった石材工事が施工不良でお客様とトラブルになっている、という話を聞いたとのこと。それがどうしても気になって、今回は契約を解除したいということでした。実は、以前も、その A 石材店が根拠のない誹謗中傷をお客さんに伝え、結果的に契約を解除されるケースがありました。当社は過去に顧客との間で、工事の施工不良によるトラブルが生じたことは一度もなく、まったく根拠のない話です。このようなことが二度と繰り返されないよう、嚴重注意したいと思いますが、どのように対処したらよいでしょうか？」

平成 22 年（2010 年）10 月 25 日号／第 1896 号

質問

ある顧客の墓石を 3 年前に建立したのですが、いまだに支払いが完了されていません。特別に支払い期限というものは設定していなかったのですが、このままでは墓石を撤去したいくらいです。このような場合、法的にはどのような措置がとれるのでしょうか？

平成 22 年（2010 年）11 月 25 日号／第 1899 号

質問

ある石材店からの相談です。「江戸時代から続くお寺から、境内にある墓地を広げて整備したいとの相談があり、登記簿を調べたところ、墓地は、古くからの檀信徒と思われる数十名の共有になっていました。お寺が墓地の所有権を持っていないため、墓地開設等の許可を

保健所に受け付けてもらえず困っています。何とかお寺が墓地の所有権を持つようにできないでしょうか？なお、墓地には檀家さんのお墓しかありません」。

平成 23 年（2011 年）1 月 25 日号／第 1904 号

質問

著名人の墓所等でお骨を盗まれたという事例が過去にあります。実際に盗まれた場合、霊園などの管理責任は問われるのでしょうか？

平成 23 年（2011 年）2 月 25 日号／第 1907 号

質問

当社は、お客様から古い墓石の処分を依頼された場合、処分代金をいただいた上で、引き取りますが、それを得意先の材料置き場へ一時保管し、仏石を除く古墓石を砕いてもらい、後日他のお墓の台まわりの基礎石として使用しています。このようなやり方は、法律的な問題があるのでしょうか？

平成 23 年（2011 年）3 月 15 日号／第 1909 号

質問

当社は、建設や土木工事の下請をしている石材業者ですが、元請業者の注文書には、「工事の施工が設計及び仕様に相違したときは、当社の指示通り、何回にても直ちに手直しする」とか、「万一、当工事が竣工期限までに完成しない場合は、これによって生じた一切の損害は貴方にて賠償する」など、下請業者に一方的に不利な条件が記載されていたり、工事を開始した後に注文書が出されることもあります。このようなことは、下請法に違反しないのでしょうか？

平成 23 年（2011 年）3 月 25 日号／第 1910 号

質問・その 1

東北地方太平洋沖地震で隣のお墓が倒れて、お客様のお墓が傷つけられてしまいました。このような場合、隣のお墓の所有者に責任はあるのでしょうか？

質問・その 2

今回の地震でお墓が倒壊しましたが、お墓の所有者は墓地を作った石材店に対し、法的責任を追求できますか？

平成 23 年（2011 年）4 月 15 日号／第 1912 号

質問

東北地方太平洋沖地震後、お墓の修復依頼を受けて作業を進めていたのですが、余震の影響でまた倒れてしまいました。このような場合、石材店にどのような法的責任が問われるの

でしょうか。また、どのように対処すべきでしょうか？

平成 23 年（2011 年）5 月 25 日号／第 1915 号

質問

地震により、公営墓地の地盤が崩れて、お客様の墓石が倒壊してしまいました。この他の墓地でも同じように地盤が崩れてしまったところもありますが、全部ではありません。このような場合、お墓の施工工事をした石材店は法的責任を問われるのでしょうか？。墓地が民間や寺院墓地である場合はどうでしょうか？。また、今回の震災のように津波によって流されてしまった墓石は、誰の責任で修復することになるのでしょうか？。

平成 23 年（2011 年）6 月 25 日号／第 1918 号

質問

墓石の石種やデザイン・向き・施工方法などについて、お客様と打ち合わせし、ご納得いただいた上で墓石を建立したのですが、建立後「思ったものと違う」の一点張りで、やり直しを求められています。口約束のみだったので、こちらもいけないかもしれませんが、お客様もこちらの説明に間違いなく納得された上で、墓石作りを進めてきました。このような場合、石材店側とお客様側とどちらに法的責任が問われるのでしょうか？また、どのようにしたらトラブルを防げるのでしょうか？

平成 23 年（2011 年）7 月 25 日号／第 1921 号

質問

亡きご主人のためのお墓を建立したいというお客さまがいらっしゃるのですが、亡くなった後、お墓を建立して遺産から代金を支払う予定ということでした。この場合、墓石は相続税の課税対象になるのでしょうか？また、お墓の代金は、相続債務として遺産から差し引くことはできるのでしょうか？

このほか、ご主人が一部のお金を頭金として納入していた場合や、ローンで墓石を購入していて、その途中で亡くなってしまったような場合、墓石の相続税はどのようになるのでしょうか？

平成 23 年（2011 年）9 月 25 日号／第 1926 号

質問

自分の所有している土地（墓地ではない）にお墓を建てたいと要望しているお客さまがいるのですが、墓地埋葬等に関する法律では、禁止されていると思います。ただし、「知り合いも自分の土地にお墓を建てている」といって、こちらの意見をなかなか聞いて頂けません。お客さまの要望通り、お墓を建ててしまった場合、法的にどのような処置がなされるのでしょうか。また、このような件について、判例があれば教えてください。

平成 23 年（2011 年）10 月 25 日号／第 1929 号

質問

お墓の工事中に墓石が倒れ、従業員が重傷を負ってしまいました。すぐに病院に行かせ、出来る限りの対処をしたつもりですが、後日、その従業員から「安全靴を履かせていなかった」ことを理由に賠償金を求められました。このような場合、どのように対処したら良いのでしょうか？

平成 23 年（2011 年）11 月 25 日号／第 1925 号

質問

当社で開発した石材関連製品で、デザイン・機能ともによく似た商品が出回っています。当社製品は特許もあり、意匠登録も済ませていますが、特許や意匠登録に抵触している場合、どのような法的措置を取ることができるのでしょうか。また、類似商品であることを知らずに使っている石材店にも法的措置を取ることができるのでしょうか。

平成 24 年（2012 年）1 月 25 日号／第 1937 号

質問

昨年、暴力団排除条例が全国の都道府県で制定されたり、芸能界などで暴力団との関係についてのニュースが話題になりましたが、石材店として反社会的勢力との関係について気をつけなければならないこと等、法的な観点からアドバイスしてもらえないでしょうか？

平成 24 年（2012 年）2 月 25 日号／第 1940 号

質問

最近、石材店でもブログや Twitter、Facebook などインターネットを利用した情報発信が目立っています。多くの方に情報を発信する上で非常に効果的だと思われそうですが、一方で、掲載する写真や表現で、思わぬトラブルに巻き込まれるケースもあるように思われます。法的な観点からインターネット上での情報発信における注意点等をアドバイスして下さい。

平成 24 年（2012 年）3 月 25 日号／第 1943 号

質問

「新聞の折込チラシに『限定 5 基特別価格で販売』と掲載されていたので、すぐに行ってみると、完売したと言われ別の墓石を奨められた。限定 5 基というチラシは嘘ではないか」という石材店に関する苦情が国民消費生活センターに寄せられていると聞きました。そのような広告をした石材店に罰則は科せられないのでしょうか。

また、他社が開発したものを、自社オリジナルの墓石として販売していたり、お墓ディレ

クター取得者がいない（過去はいたが現在はいない）にもかかわらず、「お墓ディレクターのいる店」という看板を掲示して販売しているような場合、法的にどのような罰則が科せられるのでしょうか。

平成 24 年（2012 年）5 月 5 日号／第 1946 号

質問

500万円以上の石工事をする場合、建設業の許可が必要だと聞きました。これは建築の石工事だけでなく、お墓の工事も同様に必要なのでしょうか。また、墓石の商品代だけで500万円を超えるような場合、仕事としては確実に500万円を超えるものになるのですが、このような仕事を請け負った場合も建設業許可が必要になるのでしょうか。罰則等も含め法的見解を教えてください。

平成 24 年（2012 年）6 月 5 日号／第 1949 号

質問

石材店からの相談です。「お客様からお墓の工事を頼まれたのですが、医師からお客様の奥様が不治の病で余命が6か月ほどと言われたので、是非とも存命中にお墓を建てたいとの話でした。お客様の要望にそって早速、お墓工事に着手したのですが、思いの外、奥様が早く亡くなり、お墓の完成が間に合いませんでした。お客様は約束と違うと言って、苦情を申し入れてきました。どのように対処したら良いのでしょうか。なお、お客様と取り交わしたお墓工事の契約書には、引渡日は空欄になっています」。

平成 24 年（2012 年）7 月 5 日号／第 1952 号

質問

「お客様から墓石建立の依頼をいただいたのですが、隣の区画の墓石が、大震災による影響で傾き、このまま基礎工事や施工工事を進めると、隣の墓石が崩れたり、傾斜が進むおそれがあります。隣の区画の墓石の基礎を打ち直すなど補強してから、お客様の墓石を建てるのが最善の方法だと思いますが、隣の区画の墓地の所有者の行方を調べても転居先がわからないので連絡もとれず、管理費も10年以上未払のままになっているようです。同意をとれないので、どうしたらよいか悩んでいるのですが、このような場合、勝手に自費で隣地の墓地の補強工事を行うことは、法的に許されるのでしょうか？」

平成 24 年（2012 年）8 月 5 日号／第 1955 号

質問

墓地にお墓を建てる際、クレーンを使用したのですが、その時、邪魔になる木の枝を社員が勝手に切ってしまいました。すると後日、その木が非常に大事なものだたと墓地の管理者に言われてしまい、困っています。見た限り、決して大事そうに管理していたとは思えな

いのですが、このような場合、どうしたら良いのでしょうか？

平成 24 年（2012 年）9 月 5 日号／第 1957 号

質問

「数年前に民間霊園の永代使用权を購入して外柵までは建立した」という消費者の方からお墓の相談を受けました。その方は、「先日、石碑を購入しようとしたら、石碑だけで 200 万円すると言われた。知り合いの石材店に聞いたら、そのタイプの石碑ならば 50 万円くらいが相場で、高くても 100 万円程度と説明された。知り合いの石材店を選びたい」と言っています。霊園の指定石材店以外の業者から石碑を購入することは、法的に許されるのでしょうか？

平成 24 年（2012 年）10 月 5 日号／第 1960 号

質問

お墓を求めてきたお客さんに、打ち合わせの際、従業員が「お墓は 10 万円でもできます」と一般的な話をしたら、それをボイスレコーダーに録音されていて、「10 万円できると言ったんだから、希望のものをその金額でやってもらえないと許せない。もしやってもらえなければ、自分はインターネット関係の仕事をしているので、このレコーダーの内容をネットで公開して、社会に訴えてやる」と言われてしまいました。このようなことは法的に許されることでしょうか？

平成 24 年（2012 年）11 月 5 日号／第 1963 号

質問

共同墓地内に新規のお墓を建てる工事中に、市役所から「この場所は畑なので、農地法による農業委員会の用途変更の許可を受けないまま、お墓の工事をしてはならない」と工事中止を求められました。調査したところ、元々の共同墓地が 35 年前に無許可で拡張され、拡張部分は登記上畑であることがわかりました。

工事箇所は拡張部分にありますが、共同墓地全体に外壁が巡らされ、施主もそこが墓地であると信じていました。無許可で建立したお墓が他にもあるので、お墓を建てられるはずだと抗議したのですが、農業委員会は、既存のものはしかたないと言うだけで、工事中止を求める態度は変えていません。工事の再開はできないのでしょうか？

平成 24 年（2012 年）12 月 5 日号／第 1966 号

質問

共同墓地に空きがあるのですが、墓地の売買はできるのでしょうか。なお、その共同墓地には管理規約はなく管理者も決められていません。

平成 25 年（2013 年）1 月 15 日号／第 1969 号

質問

「墓石の販売や墓地工事の契約をする際、お客様に石材や工事内容について、どの程度説明したらよいでしょうか？ 説明内容は、書面にして渡す必要はありますか？」

平成 25 年（2013 年）2 月 5 日号／第 1971 号

質問

お客様からの相談です。「入籍はしていませんが、長年暮らしている（内縁の）夫が持っているお墓に入ることは法律的に可能でしょうか？」

平成 25 年（2013 年）3 月 5 日号／第 1974 号

質問

「10 日前にお客様の自宅に出向き、墓石の売買契約を締結しました。ところが、お客様はどうしても解約したいと言っています。既に手付金もいただいているのですが、このような場合、どういう対応をすればよいでしょうか？」

平成 25 年（2013 年）4 月 5 日号／第 1977 号

質問

お客様から寺院墓地内のお墓の建て直しの依頼を受けて、工事をしました。ところが、完成直後に、そのお寺から、建てたお墓は教義に反する箇所があるので、手直しを求められたそうです。その必要はあるのでしょうか？また、お客様は当社に、無償で手直し工事を行うように求めています。注文通りにお墓を建てたのに、石材店は無償で手直ししなければならないのでしょうか？

平成 25 年（2013 年）5 月 5 日号／第 1979 号

質問

お客様から依頼を受けてお墓の施工をしているのですが、隣の墓地が、徐々に傾いてきています。当社は基礎工事に力を入れて施工していて、隣の墓地に影響を与えることなどありえないので、隣の墓地の傾きの原因は、基礎が施工不良のためとしか言いようがありません。このまま施工を進めて行くと、隣の墓地が一層傾き、墓石が転倒するおそれもあります。どのようにしたら、工事再開ができるのでしょうか？

平成 25 年（2013 年）6 月 5 日号／第 1982 号

質問

あるエンドユーザーからの相談です。「霊園を訪問し、墓石を建てたいと伝えたところ、指定石材店をご紹介いただきました。そして、打ち合わせを進めていったのですが、その石

材店担当者の態度があまり良く感じず、霊園に違う石材店を紹介してもらえないかと伝えたところ、もし石材店を変えるのであればウチの霊園では墓石を建立する事は出来ませんと言われました。あまりに売り手本位で、どうしても納得が出来ません。法的に問題はありませんか？」

平成 25 年（2013 年）7 月 5 日号／第 1985 号

質問

お墓参りに来た方のお子さんが、霊園内の他のお墓で、外柵が落ちる事故に遭い、足の骨を折ってしまいました。事故の起こったお墓は、所有者がおらず、お参りに来る人もいないのですが、霊園では好意でそのままにしていたそうです。このような事故が起きた場合、霊園は、事故発生の法的責任を負いますか？

平成 25 年（2013 年）8 月 5 日号／第 1988 号

質問

土の上に置いておくと数年で中のお骨も土に還るとい骨壺があるようで、“自宅の庭においておけば良い、と聞きました。その商品自体は問題ないと思いますが、自宅の庭にお骨をおいておき、土に還してしまうという行為は問題があるように思います。法的見解を教えてください。

平成 25 年（2013 年）9 月 5 日号／第 1990 号

質問

消費者からの相談です。「年間管理費を数十年分支払えば、その後、管理費の支払いが免除されるという永代管理付きの墓所を契約したのですが、最近になって霊園から“違う会社に経営を引き継ぐことになった。円滑に引き継ぎを進めるために、今後5年間、墓所面積に応じた負担金を支払ってほしい、という書面が届きました。追加のお金を支払わなければならないのでしょうか？」

平成 25 年（2013 年）10 月 5 日号／第 1993 号

質問

石材店からの相談です。「お客様が、自分で探してきた墓石のパンフレットを持参され、この墓石のデザインが気に入ったので、同じ墓石を作ってくれないかと依頼されました。墓石が意匠登録されていることがあるということも聞いているのですが、意匠登録がなされているか、どのように調査したらよいのでしょうか？」

平成 25 年（2013 年）11 月 5 日号／第 1996 号

質問

ある石材店からの相談です。「当社の社員が墓石の販売のため説明していた途中、顧客が威圧的な態度で接してきたうえ、感情を高ぶらせて『訴えてやる』と怒って帰ってしまいました。当社の社員は努めて丁寧に接客していたつもりですが、もし、顧客が当社に裁判を起こしたような場合、どのような結果になるのでしょうか？法的見解をお聞かせ下さい」

平成 25 年（2013 年）12 月 5 日号／第 1999 号

質問

消費税の増税がされることになりましたが、お墓工事の代金の税率はどうなるのか教えて下さい。

平成 26 年（2014 年）1 月 15 日号／第 2002 号

質問

墓石の製作・施工を依頼され、墓地に設置完了後、お施主さんが亡くなられてしまいました。後日、そのご家族に墓石の製作・施工代金の請求をしたところ、「親が勝手に買ったものだから、知らない」と、支払いに応じてくれません。契約書は交わしてなく、口約束だけだったのがいけないのかもしれませんが、このような場合の法的見解を教えてください。

平成 26 年（2014 年）2 月 5 日号／第 2004 号

質問

ある消費者からの質問です。「国産〇〇石の墓石を建立したのですが、後日、別の石材店に聞いたら、「これは中国産〇〇石、と指摘されました。墓石を販売した石材店のやり方は許せません。法的にどのような方法が取れるか教えてください」。

平成 26 年（2014 年）3 月 5 日号／第 2007 号

質問

「当社の石置き場に近所の子供が勝手に入り込み、石によじ登った際に転んでケガをしまいました。これまで、このようなことは起きたことがなく、特別な柵を用意していたり、「立ち入り禁止」「危険」などの注意書きも一切していませんでした。このような場合、当社に何らかの責任があるのでしょうか？」

平成 26 年（2014 年）4 月 5 日号／第 2010 号

質問

葬儀業者が新聞折り込みチラシで「〇〇倶楽部の会員になれば葬儀の式場費用を 50%値引きする」と広告したが、実は「誰でも会員価格で葬儀が出きた」ということが問題になったことを新聞報道で知りました。このような場合、法的にどのような措置がとられるのでしょうか。また、同様のことが石材店でも起きないでしょうか。注意点等アドバイスをして下さい

さい。

平成 26 年（2014 年）5 月 5 日号／第 2012 号

質問

平成 26 年 4 月 1 日から消費税が 8%に増税されましたが、弊社の得意先から以前の通り 5%で取引するよう言われ、断りきれず、3%分をいただけない状況になっています。このようなことが判明した場合、法的にどのような措置がとられるのでしょうか。

平成 26 年（2014 年）6 月 5 日号／第 2015 号

質問

「当社は石材の加工卸業者ですが、先日、小売店から当社が加工し出荷した石製品が、水を吸ったことで色が変わり、変色したまま残ってしまったというクレームが入りました。これまでに、このような例はなく、おかしいと思って問いただしてみると、小売店が強力な薬剤を使用して石製品を洗ったことから変色をしたようです。このような場合、当社は法的責任を負わなければならないのでしょうか？」

平成 26 年（2014 年）7 月 5 日号／第 2018 号

質問

「当社は石材商社ですが、取引先の小売店から当社の卸した墓石に『欠け』があるとクレームが入りました。そこで現物を確認してみたところ、運搬中などに欠けたものとは到底思えず、正直納得できません。

以前、小売店が自分で起こしたミスにも関わらず、商社へクレームとして出し、代替品を無料でもらったことがあるといった話を聞いたことがあるのですが、もし、小売店側が自分のミスにも関わらず、それを商社に押しつけていたことが判明した場合、法的にどのような措置がとられるのでしょうか？」

平成 26 年（2014 年）8 月 5 日号／第 2021 号

質問

ある石材店がお客様から受けた質問です。「結婚して他家に嫁ぎましたが、私の両親が葬られているお寺の墓地の承継者（男系）がいません。お寺の住職から、今後の管理等はどのようにするのか？と尋ねられました。お墓の承継に関し、お寺と両親との間で、特別な契約は結んでいないようですが、どうしたらよいのでしょうか？」

平成 26 年（2014 年）9 月 5 日号／第 2023 号

質問

石材店がお寺の住職からいただいた質問です。寺院墓地内のお墓の承継者が、埋蔵されて

いる近親者のお骨を勝手に取り出し、県外の墓地に改葬をしてしまったそうで、「お世話になりました」といった手紙だけを残していなくなってしまったとのこと。地元の市役所には、「個人墓地からの改葬」という虚偽の説明をし、改葬許可証を作成してもらったそうで、既に県外の墓地に納骨されているようです。

今後、お墓を撤去するのか、管理をどのようにするのかについてお墓の承継者から何の説明もなく、お寺の住職も困ってしまっています。撤去する場合には70~80万円くらいかかりそうです。もし、お墓を放棄してしまったような場合、どのように対処したらよいでしょうか？

平成26年（2014年）10月5日号／第2026号

質問

ある石材店からの相談です。「当社の駐車場に車を止めようとしたお客様が、別のお客様の車にぶつけてしまいました。当社の駐車場内に『駐車場内のトラブルについては一切の責任は持ちません』等の看板は立てていません。基本的には当事者同士の問題だと思うのですが、法的にはどのような見解になるのでしょうか？」

平成26年（2014年）11月5日号／第2029号

質問

ある石材店からの相談です。「霊園の土地や納骨堂には、固定資産税がかかるのでしょうか？」

平成26年（2014年）12月5日号／第2032号

質問

「お客様（エンドユーザー）から建墓の相談を受け、その意向をくみ取りながら、お墓のデザインを考えて提案しました。そのデザインは通常の墓石とは違い、非常に凝った意匠を施すもので、類例のない斬新なものであり、図面もお渡ししました。お客様からは、その段階で「気に入らない」といわれたので「このデザインは当社以外では使わないように」とお伝えし、口約束でしたが同意してもらいました。

ところが、お客様は後日、他の石材店に依頼し、当社が考えたデザインのお墓を作ってしまったのです。デザインの意匠登録はしていませんが、法的措置をとれないでしょうか？」

平成27年（2015年）2月5日号／第2037号

質問

ある石材店からの相談です。「当社は小売石材店の下請としてお墓工事の施工を行なっている業者ですが、先日、元請の石材店の指示を受け、その通りに施工したにもかかわらず、後日、当社の手抜きのように言われ、工事のやり直しを求められました。当社としては、小

売石材店の担当者の指示通りに工事したのですが、どうしても聞き入れてもらえず、やむを得ず、当社の負担で工事をし直しました。このような場合、法的にはどのような見解になるのでしょうか？」

平成 27 年（2015 年）3 月 5 日号／第 2040 号

質問

石材店からの相談です。「お施主様から、墓地の敷地境界に石積みをするのを依頼されました。ところが、隣地の農地の所有者から畦道がお施主様の土地との間にあり、畦道の間が境界だといって、そこに石塀をつくるように要求されました。このような場合、どうやって境界を決めたらよいのでしょうか？」

平成 27 年（2015 年）4 月 5 日号／第 2043 号

質問

近くの石材店が、閉店をすると広告を出して墓石の販売セールをしています。ところが、その石材店は、閉店セールの期間が終わっても、いっこうに閉店をする様子がなく営業を続けています。このような販売のやり方は違法ではないのでしょうか？」

平成 27 年（2015 年）6 月 5 日号／第 2048 号

質問

ある石材店からの相談です。「当社はお墓工事の施工を下請に出していますが、先日、下請業者がクレーンを使用して墓石をお墓に設置していたところ、誤ってクレーンが倒れて、隣のお墓を壊してしまいました。下請業者には安全を心がけるよう常に注意していたのですが、当社には隣のお墓の所有者に対し、法的責任を負うことがあるのでしょうか？」

平成 27 年（2015 年）7 月 5 日号／第 2051 号

質問

ある石材店からの相談です。「昨年、お寺さまの依頼で寄進をしていただいた方の芳名碑の制作をしました。この芳名碑は本堂の建設に伴い、寄付をしていただいた方の名前・金額を刻んだものですが、建立後、寄進者の一人から、『あのような個人情報がわかるものを建ててもらっては困る。個人情報保護法に抵触するものではないか』と厳しい態度でお寺さまにクレームを訴えてこられたそうです。

お寺さま側からは事前に芳名碑をつくることは法要案内などを通して通知していたそうです。こういう場合の芳名碑に刻んだお名前は個人情報に当たるのでしょうか？対応として、少し目立ちにくい所へ移設しようと思っておりますが、法的にしなければならない義務はあるのでしょうか？」

平成 27 年（2015 年）8 月 5 日号／第 2054 号 1

質問

「霊園でお墓を購入した方が、別の霊園のお墓を買ったので、お墓を返すことになりましたが、購入時に支払った永代使用料の返金を求めています。それに応じる必要はありますか？お墓を建てて 10 年以上たっている場合とお墓が建てられていなかった場合で違いはあるのでしょうか？」

平成 27 年（2015 年）9 月 5 日号／第 2056 号

質問

「お店の BGM として勝手に CD を使って音楽を流すと著作権侵害になると聞きました。石材店の場合、展示場や工場などで音楽を流しながら仕事をするともありますが、どのような場合に著作権の侵害になるのか、どうすれば著作権の侵害にならないのか、などについて教えてもらえないでしょうか？」

平成 27 年（2015 年）9 月 25 日号／第 2058 号

質問

「先日、神社で遊んでいた子供が落下した石灯籠の一部の下敷きになって亡くなってしまったという報道を見ました。人の多く集まる神社や寺院には石造物も数多く建立されており、今後、同様の事故が起こる可能性も否めません。このようなことが起きた場合、石造物の製作・施工をした石材店の法的責任としてはどのようなことが考えられるのでしょうか？」

平成 27 年（2015 年）11 月 5 日号／第 2062 号

質問

「高齢者の方からお墓工事の依頼を受けましたが、契約をするには、どのようなことに注意したらよいのでしょうか？」

平成 27 年（2015 年）12 月 5 日号／第 2065 号

質問

当社は採石業者ですが、当社が採石権を有している採石場（甲土地）の隣接地の地権者 A から新たに採石権の設定を受け、隣接地（乙土地）でも採石を開始しました。ところが、A が破産するに至り、裁判所から選任された管財人が乙土地を B に売却してしまいました。

当社は B から乙土地での採石と土地使用の中止を求められていますが、応じなければいけませんか？

平成 28 年（2016 年）1 月 15 日号／第 2068 号

質問

ある石材店からの相談です。「大型マンションにおける基礎工事の杭打データ偽装が大きな社会問題となりましたが、墓石工事をした際、基礎工事が施主に伝えていた内容と異なり、その結果、墓石が傾いてしまったような場合、どのような法的責任が課せられるのでしょうか？また、基礎工事を下請業者が行なった場合はどうでしょうか？」

平成 28 年（2016 年）2 月 5 日号／第 2070 号

質問

ある石材店からの相談です。「最近、ネット上の無料コミュニケーションツール（ライン）を使った芸能人の会話が公になり、スキャンダル問題として話題になっていますが、ネット上における友だち同士だけの会話が許可なく公にさらされることは法的に問題ないのでしょうか。また、そこでの会話が仕事（顧客）にかかわる情報であり、その内容を許可なく第三者に伝えられてしまった場合、その情報を第三者に伝えてしまった者には、法的にどのような責任が課せられるのでしょうか」。

平成 28 年（2016 年）3 月 5 日号／第 2073 号

質問

「平成 29 年度から建設作業員に社会保険の加入が義務付けられることになると聞きましたが、石材の施工業者にもそのような義務が課されるのか教えて下さい」。

平成 28 年（2016 年）4 月 5 日号／第 2076 号

質問

ある石材店からの相談です。墓石を販売する契約を結んだ際、お客様から手付金と内金を受け取ったのですが、突然お客様から一方的な契約解除の申し出がありました。当店において契約締結したので、クーリングオフは適用されないのですが、手付金と内金の返還はどこまで必要でしょうか？対処方法を教えて下さい。

平成 28 年（2016 年）5 月 5 日号／第 2078 号

質問

「管理料の滞納者に対する処置について『立て看板』→『墓石撤去』→『永代供養塔に遺骨の合葬』といった順序で対応しようと思います。このような対応をしてもよいのでしょうか？」

平成 28 年（2016 年）5 月 25 日号／第 2080 号

質問

「震度 6 または 7 の地震により石造物が倒壊した際、近くにいた人が倒壊した石にぶつかってしまい、けがをしてしまいました。震度 6 や 7 での倒壊の場合、不可抗力の天災といえ

るものだと思いますが、けがの責任は誰が負うことになるのでしょうか。法的見解ならびに石材店として注意すべき点等についてアドバイスください」。

平成 28 年（2016 年）7 月 5 日号／第 2084 号

質問

「熊本地震により墓地で今にも倒れそうな墓石があります。その墓石はそれまでの地震でかなりずれたため、猫足の上にかろうじて乗っている状況ですが、今後の余震の影響で倒れてしまう危険性が高く、その墓石が倒れると隣接している墓石にも被害が及んでしまいます。

ところが、持ち主は不明で連絡のとりようがなく、共同墓地であるために寺院墓地や霊園のような墓地管理者もいない状況です。持ち主のわからない墓石を勝手に修繕して良いかどうか悩んでいます。このような場合、どのように対応したら良いのでしょうか。法的見解を教えてください」。

平成 28 年（2016 年）8 月 5 日号／第 2087 号

質問

最近、地元の寺院が『宗派不問』、『檀家にならなくてもお墓を購入できます』という宣伝をして、墓地または永代供養墓を販売しています。このような墓地と普通の寺院墓地とでは、法律、税務上の取り扱いに違いがあるのでしょうか？

平成 28 年（2016 年）9 月 5 日号／第 2089 号

質問

ある石材店からの相談です。「当社は豪雪地帯にあり、例年冬になると雪が墓地に積もりませんが、昨年の冬、当社が 3 年前に施工して設置した墓地内のステンレス製塔婆立ての接合部が、石塔との間に積もった雪の圧力で壊れてしまいました。このような場合、塔婆立ての損壊について、法的責任はあるのでしょうか？」

平成 28 年（2016 年）10 月 5 日号／第 2092 号

質問

「当社は墓石のクリーニングを行なっています。ある顧客から依頼を受けてクリーニングを施工したのですが、『イメージより白くなってしまっている。元に戻すまで代金は払わない』と言われてしまいました。このような場合、代金はもらえないのでしょうか。法的見解や注意すべき点を教えてください。」

平成 28 年（2016 年）11 月 5 日号／第 2095 号

質問

石材店からの質問です。「お客さまが来店され、自分で選んで購入された石灯籠をお客さまのご自宅に設置しました。その後、お客さまが笠の下に小さな矢穴の跡を見つけ、欠陥品だといって、代金の全額返金を求められています。矢穴の跡には私も気づかなかったのですが、石垣やモニュメントなどに矢穴の跡がついているものも多く、一概に欠陥品とは言い切れないと思いますが、返金に応じる必要はありますか。」

平成 28 年（2016 年）12 月 5 日号／第 2098 号

質問

「墓石工事の際、依頼人が祭祀主宰者であることを確認する方法がありますか？」

平成 29 年（2017 年）1 月 15 日号／第 2101 号

質問

「墓石やお墓の事故に対処するため、PL法上どのような対策をとればよいでしょうか？また、石材店は商品の取扱説明書などお客様に渡すことは必要でしょうか？」

平成 29 年（2017 年）2 月 5 日号／第 2103 号

質問

「遺骨を寺院に宅配便で送付して納め、永代供養してもらうということが行なわれていると聞きましたが、遺骨を宅配便で送ることは、法的に許されるのでしょうか？」

平成 29 年（2017 年）3 月 5 日号／第 2106 号

質問

お客様から石材店に寄せられた相談です。「改葬のため、墓地のあるお寺に埋蔵証明書の発行を依頼したのですが、お寺と仲が悪いことから、拒否されてしまいました。改葬をすすめることはできるでしょうか？」

平成 29 年（2017 年）4 月 5 日号／第 2109 号

質問

石材店に寄せられたお客様の質問です。「昨年亡くなった夫は、夫の実家のお寺のお墓に埋葬されています。実家のお墓は、夫の兄がお寺の檀家となって承継しています。しかし、私と義母や夫の兄との折り合いが悪く、また生前夫もそのお墓に入りたくないと希望していたので、夫の遺骨を別のお墓に改葬することにし、改葬許可も受けました。そこで、お寺に改葬すると報告したところ、夫の兄が改葬に反対しているので、改葬には協力できないと言われてしまいました。夫の遺骨の改葬はできますか？」

平成 29 年（2017 年）5 月 5 日号／第 2111 号

質問

ある石材店からの質問です。「当社の営業担当の社員が転職するといって退社したのですが、隣の市で営業している同業のA社の取締役役に就任していたことがわかりました。元社員は、当社の顧客名簿や墓石の原価表、墓石のパスなどを持ち出して営業しているようなのですが、当社の顧客名簿などを持ち出して利用することは法的に許されるのでしょうか？」

平成 29 年（2017 年）6 月 5 日号／第 2114 号

質問

「先般ペット霊園が突如閉鎖しトラブルになっていることが報道されていました。その中で『ペット霊園の開設に届出は必要ない』ことが説明されているのを目にしましたが、ペット霊園は誰でも開設できるのでしょうか。また、石材店がペット霊園を開設するにあたっての注意点をアドバイスください」

平成 29 年（2017 年）7 月 5 日号／第 2117 号

質問

お客様から石材店に寄せられた相談です。「実家のお墓に埋蔵されている父親の遺骨を分骨して、私の墓地に移したいのですが、どのように行なったら良いでしょうか？なお、実家のお墓は兄が承継しており、兄に分骨をお願いしたところ、断られてしまいました。」

平成 29 年（2017 年）8 月 15 日号／第 2120 号

質問

石材店の経営者からの相談です。「親しい友人から事業資金の銀行融資の保証人になってもらえないかと依頼されたのですが、保証人になるのに法律上の制限はありますか。また、自分の会社が借入れをするときに、私自身が保証人になる場合はどうでしょうか。」

平成 29 年（2017 年）9 月 5 日号／第 2122 号

質問

石材店からの相談です。「先日、身寄りのない高齢者が亡くなった後に残した遺産をNPO法人などに贈る『遺贈寄付』という取り組みが関心を集めている、ということを知りました。『遺贈寄付』とは、どのようなもので、どのようにすれば寄付できますか？遺族がいる場合も行なえますか？」

平成 29 年（2017 年）10 月 15 日号／第 2126 号

質問

石材店からの相談です。「寺院墓地に永代供養墓を建立することになり、設計から製作・施工まで依頼を受けました。今回の永代供養墓の建立にあたり行政への許可申請は必要に

なりますか。」

平成 29 年（2017 年）11 月 15 日号／第 2129 号

質問

石材店からの相談です。「台風による豪雨で墓地が土砂崩れの被害にあい、多くの墓石が崩壊するなどの被害を受けています。このような場合、墓地・墓石の修復費用は誰が支払うことになるのでしょうか。」

平成 29 年（2017 年）12 月 5 日号／第 2131 号

質問

「墓石業界で、他の業界にならって、公正競争規約をつくる動きがあると聞きました。公正競争規約とは何か全くわからないので、どのようなものか、また、それを作る意義などを教えてください」

平成 30 年（2018 年）1 月 15 日号／第 2134 号

質問

石材店からの相談です。「高齢でお墓を引き継ぐ人もいないことから、お客様から墓じまいをしたいと相談されました。墓じまいをするときには、どんな点に注意をしなければなりませんか？」

平成 30 年（2018 年）2 月 5 日号／第 2136 号

質問

小売石材店からの相談です。「下請けの会社にお墓の施工をお願いしているのですが、拝石のゆがみにより納骨時にカロート内が水浸しになっていました。他にも基礎工事の不良等により、お施主から複数件のクレームが出ました。そこで下請けの会社に話をしにいったのですが、『元請けから支給された墓石・製品が悪いためではないか。ウチのせいではない』と言われ、取り合ってくれません。このような施工不良に対して、どのように対処すれば良いか、アドバイスしてください。」

平成 30 年（2018 年）2 月 25 日号／第 2138 号

質問

去る 2 月 19 日、墓地に入った保育園児が墓石の下敷きになってしまったという事故が新聞・テレビ等で報道されました。報道によると、倒れた墓石は高さ 80 センチ、幅 40 センチ、厚さ 20 センチほどで、土台に固定されていなかったとのこと。このような事故が起きた場合の法的見解と石材店への注意点等を教えてください。

平成 30 年（2018 年）4 月 5 日号／第 2142 号

質問

墓石店からの質問です。「当社は、お墓工事のご依頼を受ける際には、お客様に見積書をお渡しし、その金額で良いとなった上で建墓の注文をいただき、工事に着手するというやり方を行っています。お墓工事の契約書には収入印紙を貼らなければならないと思いますが、見積書のみで仕事をいただく際には領収書以外に収入印紙を貼っていません。このようなやり方は、印紙税の脱税になってしまうのでしょうか？」

平成 30 年（2018 年）6 月 5 日号／第 2147 号

質問

石材店からの質問です。「ある方から紹介を受けたお客様が、お墓の購入を希望されたので、当社が墓地販売の手続きを代行している霊園を紹介し、その霊園と墓地使用契約を結んでいただきました。そのうえで、当社はお客様から墓地工事の注文を 100 万円で受け、工事を行ないました。

墓地工事の完成後、お客様に工事代金を請求したところ、お客様はその他に永代使用料が 70 万円かかることなど知らなかった、契約はもうやめるので工事代金は払えないと言われ、トラブルになってしまいました。工事代金の支払いは受けられなくなるのでしょうか？」

平成 30 年（2018 年）7 月 5 日号／第 2150 号

質問

お客様からの相談です。「田舎のお寺のお墓に両親の遺骨を埋蔵してあります。高齢となり遠方のお寺にお参りすることが困難になったので、お墓を撤去して、遺骨を近くに購入したお墓に改葬しようと思い、お寺に相談をしました。ところが、住職からお墓と遺骨を他に移すのなら『200 万円の離壇料を払え』と言われました。『離壇料』の支払いをしなくてはならないのでしょうか？」

平成 30 年（2018 年）7 月 25 日号／第 2152 号

質問

先日、改葬を委託された石材業者が、遺骨や骨壺をゴミ捨て場に捨てたことから逮捕されたという報道がありました。どのような罪に問われるのでしょうか。

平成 30 年（2018 年）9 月 5 日号／第 2155 号

質問

石材店からの質問です。「国宝の風神雷神図の屏風絵を参考に石のレリーフ彫刻を制作したいと思っているのですが、このようなものを参考に彫刻作品を制作することは法的に禁止されているのでしょうか？」

平成 30 年（2018 年）10 月 15 日号／第 2159 号

質問

石材店からの質問です。

「墓地、埋葬等に関する法律（以下、墓埋法）制定前からある共同墓地のことですが、そこには墓地管理者はいません。最近増えてきた墓じまいやお墓の移動に必要な改葬届は墓地管理者がいないため、市役所が代行して改葬届を出している状況です。墓所の土地所有者は個人名義であり、登記もしてあります。古い墓地なので無縁墓地も多く、石碑が倒れて通路をふさいでいたり、草が生い茂り、近隣の墓地所有者が迷惑を受けています。

このような墓地で、土地の所有者がまわりに迷惑をかけている無縁墓を改葬・処分し、新しく墓地として使いたい人を募って再使用することは可能でしょうか。可能だとしたら、どのような方法をとればよいでしょうか」

平成 30 年（2018 年）11 月 15 日号／第 2162 号

質問

寺院からの相談です。「ある業者から、お寺の墓地の所有者（檀家）から墓じまいの依頼を受けたという手紙がきました。その手紙には、墓地の所有者から墓石の所有権を譲り受けたので、いついつまでに墓地の撤去をしますということが一方的に記載されているだけで、その後、連絡も何もありません。その業者は墓じまいの工事を勝手にできるのでしょうか？」

平成 30 年（2018 年）12 月 5 日号／第 2164 号

質問

石材店からの質問です。「古くからある村墓地（土地は個人が所有）に墓石を建てようとしたら、墓地の世話人会という人たちから反対されました。調べてみると、その墓地は、墓埋法の許可を受けておらず、世話人会は、墓地として使用している地元の人たちにより作られ、墓地に引いた水道の代金を集めたり、集金のために墓地所有者の墓地図面や名簿を所有しています。世話人は、墓地所有者を集めて総会を開き、選任された者ではなく、会則や墓地管理規約もありません。そのような世話人会に墓石を建てることを許可したり拒否する権利はあるのでしょうか。また、墓地管理者と名乗るために必要な条件とは何でしょうか？」

平成 31 年（2019 年）1 月 25 日号／第 2168 号

質問

「某会社経営者が 100 人に 100 万円、合計 1 億円をプレゼントするという企画が話題となりましたが、石材店がイベント時などに景品をプレゼントする際、法的な規制などはあるのでしょうか。注意点なども含めてアドバイスください」

平成 31 年（2019 年）2 月 15 日号／第 2170 号

質問

「飲食店やコンビニなどの店員が度を越した悪ふざけを撮影した動画を投稿し、大きな問題となっています。このような動画を投稿した店員たちには、どのような法的責任が問われるのでしょうか。従業員やアルバイトへの注意喚起も含め、石材店へのアドバイスをお願いします」。

平成 31 年（2019 年）4 月 5 日号／第 2175 号

質問

石材店からの質問です。

「2019年4月1日から改正入管法が施行され、外国人労働者の受け入れを拡大するという趣旨の報道がされています。今後、外国人の方に石材の加工・施工などの仕事を手伝ってもらいたいと思っているのですが、法的な注意点などアドバイスいただけないでしょうか」。

令和 1 年（2019 年）6 月 5 日号／第 2180 号

質問

石材店のお客様からの質問です。

「私は亡くなっても、夫と同じ墓に入りたくありません。…実家のお墓に埋葬してもらいたいが、どうすればよいでしょうか。遺言書にそのことを書いておけば実現できますか。また、散骨して欲しいと遺言書に記載しておく、散骨してもらえるでしょうか。」

令和 1 年（2019 年）7 月 5 日号／第 2183 号

質問

お客様からの質問です。「将来墓石を建てるつもりで墓地を購入したのですが、自宅近くの別の霊園墓地を購入したので、その墓地が不要になりました。墓地を欲しいと言っている親戚の者がいるので、不要になった墓地を譲渡できるでしょうか」

令和 1 年（2019 年）8 月 15 日号／第 2186 号

質問

霊園の経営者からの相談です。「霊園内に植えている桜の木の枝や幹が生長して霊園の塀を越えて公道まで張り出して伸びていました。枝と幹は切らずに張り出したままになっていたのですが、公道を通行してきた運送会社の 2 トン車の運転者が気づかずに、枝と幹に衝突してトラックが破損する事故が発生してしまいました。霊園には事故による損害を賠償する責任はあるのでしょうか？」

令和1年（2019年）9月15日号／第2189号

質問

令和元年10月1日から消費税が10%に増税されますが、買主（顧客）が増税分を値下げするように求めることを禁止するという法律があると聞きました。どのような法律なのか説明して下さい。

令和1年（2019年）10月15日号／第2192号

質問

石材店からの相談です。

「台風による豪雨で展示場や工場が浸水し、墓石・石製品が泥で汚れて商品として販売できなくなり、工場の機械も壊れてしまいました。このような場合、法的には、すべて自己責任になるのでしょうか。

また、暴風雨による影響で墓地に建てられているお客様の墓石に飛来物が当たり破損してしまった場合、どのように対処したら良いのでしょうか」

令和1年（2019年）11月15日号／第2195号

質問

インターネット上で事実と異なる情報を正しい情報のように発信し、それをエンドユーザーが信じてしまっているケースも見受けられます。明らかに事実と異なる情報だと判明した場合、情報発信者に対して何か法的な処罰などは科せられるのでしょうか。石材店が情報発信する際の注意点などもアドバイスしてください。

令和2年（2020年）1月25日号／第2201号

質問

同業者で組織する各地の石材組合・団体などにおいて各社取扱の石製品の販売価格を統一することは独占禁止法の対象になると聞いたことがあります。しかし、例えば、地震被害における墓所復旧時において、各社がバラバラの金額で対応することにより業界全体への不信感を助長させてしまったような事例なども耳にします。上記の点なども踏まえながら、同業の組合・団体等における価格協定について法的な見解を教えてください。

令和2年（2020年）2月25日号／第2204号

質問

小売石材店（以下、小売店）からの質問です。「新型コロナウイルスの感染拡大による影響で、中国で加工している墓石が輸入されず、お客様にお伝えしていた納期に間に合わない状態になっています。石材業界だけでなく社会全体の問題なので、致し方ないことだと思いますが、このような理由で納期が遅れてしまう場合、法的には問題ないことでしょうか？」

令和2年（2020年）3月25日号／第2207号

質問

石材店からの相談です。「あるお寺から無縁墓地の墓じまいを依頼されお墓の撤去工事をしたところ、そのお墓には承継者がいて、無縁墓地ではなかったことがわかりました。所有者からお墓を勝手に取り壊したと抗議を受けています。石材店に法的責任はあるでしょうか？」

令和2年（2020年）4月15日号／第2209号

質問

石材店からの質問です。「お客様より記念碑の製作・建立の依頼を受け、石材卸商社へ発注し、中国で加工するなど石材調達の準備を進めていました。ところが、新型コロナウイルスの感染拡大による影響で、お客様の収入の見込みが立たなくなってしまったという理由で、キャンセルの連絡がありました。このような場合、どうしたらよいか、法的見解を教えてください」

令和2年（2020年）5月15日号／第2211号

質問

石材店からの質問です。「新型コロナウイルスの影響により、お墓参りできない方が増えています。このような方々に向けて、お墓参りの代行業務を行なうにあたり、法的に注意すべきことについて、アドバイスをお願いします」。

令和2年（2020年）5月25日号／第2212号

質問

石材店からの質問です。「お客様から、亡くなった親族の方の納骨の依頼を受けました。その方は新型コロナウイルスに感染し、死亡されたのですが、納骨の日程を霊園に伝えたところ、霊園は親族の方の死亡原因を知り、埋蔵は認めないと言いました。霊園は、納骨を拒めるのですか？」

令和2年（2020年）6月15日号／第2214号

質問

石材店からの質問です。「当店は新型コロナウイルスの感染予防策として、社員に対してマスクやアルコール消毒を用意するなどしていますが、どこまで徹底すれば良いのかわかりません。また、来店されたお客様から『もっと徹底しないと駄目だ』等のクレームが寄せられた場合、法的に、それに応じる義務はあるでしょうか」

令和2年（2020年）7月5日号／第2216号

質問

「石材業界で地方自治体と業界団体などが災害時応援協定を結ぶ事例があるようですが、災害時応援協定とはどのようなものでしょうか。また、協定締結に必要な手続き、協定締結のメリットや法的責任などについて教えてください」。

令和2年（2020年）8月15日号／第2219号

質問

石材店からの質問です。「自社で動画撮影したものをYouTubeにアップロードして情報発信しようと思っているのですが、撮影中に通りかかった通行人の顔や店舗、墓地に建立されている墓石が映っています。いずれも、撮影の許可をとっていないのですが、そのまま使用することは法的に問題ないでしょうか。今後YouTubeを使った情報発信をしていこうと考えており、その際の法的な注意点などをアドバイスください」

令和2年（2020年）9月15日号／第2222号

質問

石材店からの質問です。「他の都道府県の墓地に建っているお墓の撤去の依頼を受けることがあります。このような仕事を受け、撤去した墓石を都道府県をまたいで運ぶ際、運搬する荷下ろし先の都道府県知事の許可がなければ運んではいけないと聞きましたが、間違いないでしょうか。もし許可を取得していなくて運んでいた場合、罰則が科せられるのでしょうか。撤去した墓石を運搬する際における石材店の法的な注意点などについてアドバイスください」

令和2年（2020年）10月25日号／第2226号

質問

小売石材店からの質問です。「お墓を完成して引渡後6～7年経ってから、お客様から墓石の表面にヒビが発生したというクレームがありました。黒系の石を墓石に使用したのですが、夏の暑さや冬の寒さなど寒暖の差が激しい場所に建立していたために起きたものと考えられます。このように製作・完成時には品質上、まったく問題のなかった墓石が自然（寒暖）の影響を受けてヒビが入ってしまった場合、それを建立した石材店の法的責任について教えてください」。

令和2年（2020年）11月25日号／第2229号

質問

「石材店だからといって墓石や石製品しか販売できないわけではなく、線香やローソク、生花、仏壇仏具など、様々な商品を販売している事例を目にします。今後、石材店の店頭で

食品（石挽コーヒーやお酒・お菓子・ケーキ）などを販売したいと考えた場合、どのような許可が必要になるでしょうか。許可・資格が必要になる主な商材と無許可で販売した場合の罰則、石材店が様々な商材を取り扱う際の注意点などについて教えてください」。

令和3年（2021年）1月15日号／第2233号

質問

小売石材店からの質問です。

「新型コロナウイルスの感染拡大が続いています。首都圏などで緊急事態宣言が発令されましたが、石材店における店舗運営上の法的な注意点、ならびに、従業員に対する感染拡大予防策に関する法的注意点についてアドバイスください」。

令和3年（2021年）2月15日号／第2236号

質問

お客様から墓誌に戒名の追加彫刻をする依頼を受けました。そこで、事前に説明を受けてから霊園へ行き、霊園から電話をして、再度、墓所の特徴などを教えてもらい、お客様の墓所であることを互いに確認しあった上で、戒名の追加彫刻をしました。

ところが、お客様の墓所は、追加彫刻した墓所の隣であることが判明しました。結果として、隣の墓所の墓誌に間違っただけ追加彫刻してしまったのですが、石材店には、どのような法的責任があるのでしょうか。

令和3年（2021年）3月15日号／第2239号

質問

小売石材店からの質問です。

「令和3年4月1日から商品等に対し、消費税の総額表示が義務付けられたと聞きました。墓石や石材を販売する場合、どのような価格表示をしたらよいのでしょうか。法的アドバイスをお願いします。」

令和3年（2021年）4月5日号／第2241号

質問

石材店からの質問です。「石製の花立てを開発し、名称を付けて販売しようと計画しています。現在、『お守り石』という商品名で販売したいと考えているのですが、『お守り』も『石』も広く一般に知られている言葉なので、法律上、問題は生じないでしょうか？」

令和3年（2021年）5月15日号／第2244号

質問

お墓の注文をされたお客様から、石材店に寄せられた相談です。

「父が亡くなり、父の後妻であるAが喪主となって、葬儀を執り行ない、Aが葬儀費用を支払いました。父と先妻（母）の子である私は、相続人の話し合いで祭祀主宰者（祭祀承継者）となり、墓地を承継し、父の遺骨を納骨しました。埋葬や納骨の費用、墓誌に施した父の戒名の彫刻費用は私が支払いました。

遺産分割の話し合いの際、Aより、『相続人が支払うべき父の葬儀費用を自分（A）が立替払いしたので、葬儀費用分をAに支払うように』と要求されました。Aの要求に応じなければならないのでしょうか？」

令和3年（2021年）6月5日号／第2246号

質問

石材店からの質問です。

「自社で所有している石臼や石あかり、機械や工具などを、お金をいただいて貸し出すレンタル業務を始めたいと考えています。

CDやDVD、車などのレンタル業を行なう場合には許可が必要になると聞いていますが、石材店が自社で所有している石製品や機械・工具などを貸し出すレンタル業務を始めようとした場合、法律上許可を受ける必要はあるのでしょうか？」

令和3年（2021年）6月25日号／第2248号

質問

石製品や機械などをレンタルしている石材店（レンタル業者）からの質問です。

「自社で所有している石製品や機械・工具などをレンタルしていますが、レンタル中に石製品や機械・工具が壊れた場合、利用者（借主）に対して、どのような法的責任を負いますか。また、それにより第三者に被害を与えた場合、誰が法的責任を負うのでしょうか。」

令和3年（2021年）8月15日号／第2252号

質問

石材店からの質問です。「当社が管理を任されている霊園の駐車場に、知らないうちに古い自動車が置かれて、半年以上放置されています。駐車場から自動車をどかせることはできるのでしょうか？」

令和3年（2021年）9月5日号／第2254号

質問

石材店からの質問です。「お客様よりご依頼いただいた墓石を納期に間に合うように製作し、予定通り、墓地に建立することを伝えたのですが、お客様の都合により、建立時期を延ばしてほしいと言われました。お客様と話し合いをし、本来の納期から墓石を引き渡しするまでの間、弊社の工場内に墓石を保管することにしました。」

もし、保管中に地震などの天災により、この墓石が倒壊する等してしまった場合、当社は修復のための損害賠償責任を負うでしょうか？」

令和3年（2021年）9月25日号／第2256号

質問

石材店から寄せられた質問です。「あるお客様が、お墓に埋蔵してある遺骨を取り出して、一部のお骨を手元において供養し、残りを散骨することを希望されていて、当社に遺骨の取り出しの依頼をされました。お客様の依頼に応じて、市区町村長による許可を得ないで遺骨をお墓から取り出すことはできるでしょうか？」

令和3年（2021年）10月25日号／第2259号

質問

石材店から寄せられた質問です。「お客様から、お墓の現所有者であるお客様のお父様は高齢であり、将来、誰がお墓を承継するのがよいのか悩んでいるので、相談にのってもらいたい、というお話をいただきました。

お客様は長男ですが、次男とは兄弟仲がよくなく、話し合いはできないとのこと。なお、長男夫妻には子供はいないが、次男夫妻には子供さんがいるそうです。石材店として、どのようなアドバイスをしたらよいでしょうか？」

令和3年（2021年）12月5日号／第2263号

質問

石材店からの質問です。「自社で作成して顧客に送付しているニュースレターやSNSなどに、テレビで放映されていた話題を載せたいと思っています。ニュースレターの紙面やSNSに、テレビの画面を自分で撮影し、その写真を掲載することは著作権侵害などになりますか？ また本の表紙や中身の画像を撮影した写真を掲載することは問題ないでしょうか？」

令和4年（2022年）2月5日号／第2266号

質問

石材店に寄せられたお客様からの質問です。「寺院墓地にお墓を持っているのですが、昨年に比べて年間の管理料の請求額が高くなってしまったため、お寺に聞いてみたところ、お墓の所有者に対して管理料を上げる旨の連絡をしたとのこと。お客様は、その案内を見ておらず、お寺の対応に不信感を持っています。このような場合、値上げされた管理料を支払う義務はあるのでしょうか？」

令和4年（2022年）2月25日号／第2270号

質問

「墓地の使用者が、後継者がいないために自分の死後、永代供養墓に葬ってもらうことや墓じまいをしてもらうことを希望しています。

どのようにしたら、その方が亡くなられた後、第三者に永代供養墓へ遺骨を埋蔵してもらったり、墓じまいをしてもらえるでしょうか？」

令和4年（2022年）3月15日号／第2272号

質問

霊園管理者からの相談です。「当霊園では管理料を年間1万円と定めていますが、管理料の支払いを5年怠っている墓地使用者がいます。どのようにしたら、支払いをしてもらえるでしょうか。また、支払いをしない場合に、墓地使用契約を解除することはできるでしょうか？」

令和4年（2022年）4月25日号／第2275号

質問

石材店からの質問です。「道路交通法施行規則の一部改正により、今年4月から事業所における運転者のアルコールチェック（運転前後）が義務化されたそうですが、この内容や罰則と共に、石材店における注意点について教えてください」

令和4年（2022年）5月25日号／第2278号

質問

石材店へ寄せられたエンドユーザーからの質問です。

「父親が愛用している庭の石灯笼や飛び石などは相続税課税の対象になるのでしょうか。課税になる場合、どのように価額を調べたら良いでしょうか。また、相続に関して、お墓との違いも教えてください」